

～第8792回～

戸隠五社巡り（古道）

～R1. 11. 9-10～

戸隠山は「天岩戸」が飛来したといわれる霊山。戸隠神社はその麓にあって、天岩戸開きの神事に功績のあった神々を祀っている。宝光社・火之御子社・中社・九頭龍社・奥社の五社を巡り、初冬の古道を歩く。宝光社手前でガイドと落ち合い、270余段ある石段を上る。石段脇には立派なスギが立ち並ぶ。宝光社は江戸時代末期の社殿彫刻が見事だ。ご祭神は女性や子供の守り神、天表春命(あめのうわはるのみこと)。中社へ続く神道(かんみち)に行く。境内は食事禁止のため、道脇の四阿で昼食をとる。暖かな陽が差し気持ちよい林を抜けて火之御子社へ。ご祭神は岩戸の前で踊った天鈿女命(あめのうずめのみこと)で、舞楽芸能などの神。ひっそりとした境内には夫婦杉がある。さらに進むと大きな中社の鳥居が立つ交差点へ出る。戸隠の中心地で、鳥居を囲んだ三角形の位置に「三本杉」が聳える。共に樹齢800年といわれる巨大なスギだ。ご祭神は岩戸に隠れた天照大神を誘い出す岩戸神楽を考案した天八意思兼命(あめのやごころおもいかねのみこと)で、知恵の神。ここまでの三社は近いが、あとの二社は少し離れている。女人堂跡や比丘尼石などの史跡について、ガイドの説明を聞きながら歩く。紅葉はもう終盤といわれたが、カラマツなどは見応えがある。快晴の小春日和、爽やかな散策を楽しむ。遠くに鋸状の戸隠山が姿を見せても、奥社への道程はまだある。参道入口の大鳥居から奥社へ真っ直ぐな道が2kmも伸びている。草の生えた茅葺き屋根の随神門は中間点。この先に樹齢400年を越える杉並木が500m続く。素晴らしく巨大なクマスギの並木が荘厳な雰囲気醸し出す。最後の石段を上ると九頭龍社と奥社が並び立つ。九頭龍社は地主神の九頭龍大神(くずりゅうのおおかみ)を祀り、水などを司る。奥社は岩戸をこじ開けた天手力雄命(あめのたちからおのみこと)を祀り、五穀豊穰などの神。参道を大鳥居まで戻ってバスに乗り、戸隠スキー場経由で宿坊へ向かう。戸隠山の隣に聳える高妻山がとんがり帽子のように見える。宿坊山本館はスリッパ不要の畳廊下で、夕食はソバづくしの蕎麦会席、朝食も美味しい。

夜、雨が降ったようで庭が濡れている。敷地内にある九頭龍大神を祀る神殿で行う朝拝祈禱に参加する。力強い太鼓と祝詞の後、一人ずつ玉串を奉納しお守りを頂く。玉串はサカキが育たないため、イチイを用いるそうだ。生憎の曇り空で山は見えないものの、飯縄高原は雨に濡れた紅葉が綺麗だ。千曲川を渡ると先月の台風19号による洪水の傷跡がそこかしこに残っている。小布施では岩松院を訪ね、葛飾北斎の天井絵や一茶ゆかりの蛙合戦の池、福島正則の霊廟などを見学する。町中へ戻り、名物の栗おこわを賞味しつつ北斎館や古い街並みを散策する。小布施スマートICは水害により利用できないため、須坂長野東ICから上信越道へ入る。

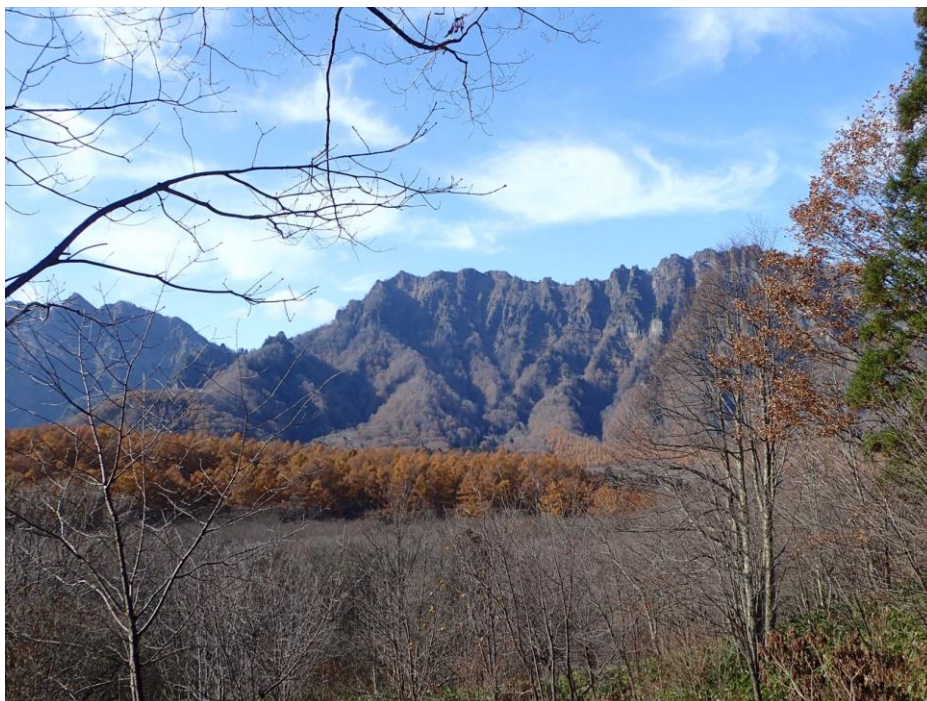
参加者：17名（静岡北3、静岡東1、静岡西2、藤枝11）

天気：①晴れ ②曇り/晴れ

地図：戸隠・高妻山

コースタイム：藤枝 530＝上信越道長野 IC1000＝戸隠神社巡り 1130-1600＝山本坊  
(泊)1625-900＝岩松院 950-1045＝小布施散策 1055-1400＝上信越道須坂長野東 IC1430  
＝藤枝 1955

記録：藤枝支部 ゆ記



戸隠古道から望む戸隠山



奥社参道に連なる巨木の杉並木